

はじめに

瓜生氏より、前月定例会にて代表を引き受ける事に関し、参加者の同意を得られここに至ることを説明。
HP 上も代表として掲載済みであることを報告。
⇒会場より承認の拍手(当日の参加者は21名)

1. あすか倶楽部創設目的、並びにあすか倶楽部のありたい姿の確認

資料「第1回あすか倶楽部懇談会における初代幹事の入間川氏挨拶」をもとに、創始者メンバーの思い、並びにあすか倶楽部の目指す姿について共有。

<読合せポイント>

- ・あすか倶楽部は、「アドバイザーの、アドバイザーによる、アドバイザーのための」会合である。
- ・アドバイザーの皆さんが何かしら勉強しあっていこう、考えていこう、という場である。
- ・会として何を創り上げていくのか？それは、皆さんが考えて、これから創り上げていけば良いのではないかと？何かしら生まれてきたら良いと思う。
- ・参加者は所属や年代など不問である。消費生活アドバイザーであることだけが共通項である。
- ・「講師の話を聴いて終わり」ではなく、皆さんが地域や企業に話題を持ち帰って、学んだことを深めるのもよし、ご自身が講師役となって学びの輪を広げるのも良い。
- ・皆さんの自発性を尊重する会であるため「くれない族」の参加はお断り。「こういうことをやりたいが、あすか倶楽部でやってみないか？」など企画の持ちかけは歓迎だが、個人の活動に対し支援だけを求めることには応えられない。

<結果>

会場より了解の拍手

2. 規約、憲章の制定について

<代表より>

以前から、その必要性については議論があったが、今回の前代表トラブル(代表が閉会を一方的に宣言、それに伴い、PCやHP管理に必要なパスワードを手放さない事態)も踏まえ、制定してはどうかとの意見がある。一方、何の縛りも無いのがあすか倶楽部の良さでもある。

検討するに当たり、規約案と憲章案を作成していただいた。皆さんの意見を伺いたい。

<意見>

- ・規約案は、役員負担軽減をねらったもの。任せきりにならないよう、偏りのないよう、役割分担をすることで会が持続していくのではと思っている。
- ・憲章案は、あすか倶楽部の担うものや押さえておきたい基本方針をまとめたもの。あすか倶楽部の持ち味である緩さと自由さは残したいと思う。
- ・前代表の運営では、一定の人に対する(事務局扱い)締め付けがあり破綻したと考える。あすか倶楽部はどのような会であるか、忘れがちとなっていた大事なことを文字化することは良いことだと思う。規約にすると承認や更新手続きなどの作業が必要となる。
- ・先の読合せ資料に書かれている内容は理想を述べられているものであり、ワクワクした。以前は役割など設けていなくても自然と夫々が行動しており、自由な中で円滑に運営されていた。その頃の姿は今でも魅力的である。
規約を設けると「緩さ」の良さが失われる。一方、どのような会であるか明文化することで講師依頼時の折衝がやりやすくなると思う。
- ・そもそも会員制ではなく自由に参加している会であるのに、「会則」は成り立たないのでは？

<結果>

皆さんの反応をまとめると、憲章スタイルを設けることで宜しいでしょうか？(代表)

⇒会場より承認の拍手。併せて、憲章作成は代表(代表指名者含む)に一任。

憲章の内容についての意見は、定例会の時やHP上などで広く求める。

憲章の更新は随時可能とするため、「憲章は皆で創り上げていく」旨を憲章内に記載する。

3. 役割分担について

<代表より>

「緩さ」と「責任」、相反することであるが、一定の担当制を設けたいと思っている。

資料「あすか倶楽部 役割分担(案)」

<意見>

- ・以前は参加者が自発的に、自然に働いていた。定例会開始前に自由に懇談をしたり、早く来られる人が設営準備をして緩く始まるなど、その「自由な良さ」が継承されていけば良いと思う。何時来ても良いという雰囲気良かった。旬な話題の講師を紹介できる人が必ずいて、次々にテーマ・講師が決まっていた。
- ・定例会開始前に打合せをしたい時など、誰でも鍵を受取ることはできるのか？併せてトヨタさんのあすか倶楽部に対する見解を伺いたい

⇒トヨタ関係者より回答

- ・本来はトヨタ社員が会議室の鍵の受け取り、返却をすることとなっている。実際は、返却は社員が行っているものの、受け渡しは代表にお願いしている。基本は「社員」が行うことであり、社外の誰でも良いというわけではない。
- ・あすか倶楽部定例会は現在「業務」として位置づけられており、会議室もお貸しすることができる状態。2018年11月までは利用可能である。但し、今後も業務として認められるか厳しい状況。働き方改革の側面からも、継続して業務と捉えられるかは難しく、11月以降はどうか全く分からない。

⇒参加者より意見

- ・2019年の会場に関しては、課題として早期に検討した方が良いと認識した。
- ・アドバイザー資格取得を推奨している企業に持ち回りで会場を提供していただけないか？
- ・業務として認めていただけるような内容にしていきたい。
- ・役割分担に関し、担当をグループ化してはどうか？

⇒会場より承認の拍手

<結果>

①チームメンバー

- ・副代表 : 輿石
- ・事務局チーム : 岸(リーダー)、市川、岡田、高橋、田島、田中、松林、三村、村田、(大澤)
- ・企画・広報チーム : 中村(リーダー)、英賀、輿石、坂本、若江、渡部
- ・IT関連チーム : 白江(リーダー)、坂本、高橋
- ・会計 : 伊藤

②連絡体制

- ・各チーム内でメールアドレスが共有できている状態にする
- ・各リーダー同士でメールアドレスが共有できている状態にする

③補足: 全チーム連携

チーム分けの目的は、参加する皆さんが積極的に会に携わることができる体制を整える為、その仕事が宙に浮き代表や一定の人に負担が集中することを回避する為である。

チーム内で作業完結を求めるものではなく、旗振り役を期待するのであり、チームの枠を超え自由闊達に活動していくことが大前提である。

④補足: チームメンバー

3チームは上記でメンバーが固定化されたわけではなく、随時賛同いただける皆さんに門戸開けてお待ちしております。

以上